



アーティストの打ち合わせで、九谷毛筆細字四代・田村星都さん(右)の工房を訪ねた「ギャラリー点」の金田さん(左)。制作現場を見学し、理解を深める模様。



作家と共に可能性が広がるステージに挑戦。

「地方のギャラリーの役割は、作家と近い距離感で一緒に歩んでいくこと」金田さん。アートフェアなど、発表の場の提供に熱心。



* * * * *

單なる取引相手に留まらない、作家とオーナーの関係 時には無名の作家の才能をも見出し、育て、企画を仕掛けて価値を何倍にも上げる——。オーナーのそんな心意気が、暮らしを豊かにしてくれる逸品の誕生を支えているのだ。

作家とオーナーの素敵な関係

器ひとつにも様々なストーリーがありました――

器がもつと好きになる!

今回、器を推薦してくれたギャラリーやショップのオーナーの方々に共通するのは、作家への愛。その一部を披露。作家とオーナーの間にある物語を知れば、手にした瞬間がいつそう愛おしく感じられるはずです。

は先駆けだ。「地元で活躍していくのも、その評判はなかなか中央まで届かない。アートフェアならダイレクトに発信でき、大きなステージに上がりやすくなる」いかに可能性を広げてあげられるか。「市場を増やすことで広がるなら、どこへでも連れて行く、作家が何かを掴む瞬間を見ると、ゾクゾクしてたりません」



ニューヨークの人々に加賀の作家の作品を紹介する「ギャラリー秋」の下口さんは、その温かな眼差しと実績を評価され、東京の百貨店で、加賀の土芸を紹介する企画展示も担当。下口さんは企画がきっかけで、メジャーデビューした作家も少なくない。



また3年前より毎年、ニューヨークのギャラリーで若手のグループ展も開催。売り込むだけではなく、言わば研修旅行。刺激を受け、創作に還元してもらえたたら、刺激は創作の源。それを体験させてあげるのが私の役目」



陶芸家・山崎美和さん(右)の新しい作品に、アドバイスを添える「ギャラリノワイヨ」オーナーの岡田さん(左)。



相談役にもなりつつ、作家の成長を見守る。

初めて山崎さんの作品を常設したのが「ノワイヨ」の岡田さん。山崎さんは独立直後からの付き合いいで、よき相談相手として制作を応援。

「ギャラリノワイヨ」取材の日、陶芸家の山崎美和さんがオーナーの岡田さんを訪ねていた。山崎さんはとっても、作品を常設してくれた初めての店。この日は新作の出来や価格についての相談だった。

山崎さんは「限らず、折にふれ顔を出す作家が多い」という。試作を持って相談に来たり、行き詰まって気分転換に来たり、「話を聞いていると、姿勢が見える。ひたむきな思いは応援したい、成長を感じるのが嬉しい。架け橋となつて、各地のアーティストにも精力的にお客様にも伝えたい」と岡田さん。

* * * * *

「私の仕事は「場」を作ること」とは、「ギャラリ一点」の金田さん。独自の企画展を催すのみならず、各地のアーティストにも精力的に参加し、若い作家を紹介。金沢で



次代を担う若手を世界に羽ばたかせて。

「ギャラリー秋」の下口さんは石川県加賀市街の協力も得て、九谷焼や山中漆器の作家を海外に紹介。自らの足で信頼のおけるギャラリーを発掘。

ニューヨークのレキシントンアベニューに面したSara Japanese Potteryのショールームで実演する九谷焼作家。